

波紋

1996 1月 第127号

1996年スローガン ≡ Don't Ever Give Up ≡

謹賀新年



年頭の挨拶

新年明けましておめでとうございます。忘年会には、奥さん、子供さんを始め、仲間の方々を含め、一二〇名と大勢参加して頂き、有難うございました。幹事役の西脇君、松井君も御苦労様でした。おかげでいつもと違った内容の、夫婦おにぎり当てゲーム、親子料理教室、本場直輸入ワンタン等、大変楽しく過ごさせて頂きました。さて、今年モーリンググループのスローガンは、年賀状に表現したように、DON'T EVER GIVE UP

(あきらめるな!!)です。

世間は、空洞化・価格破壊・規制緩和の新3K時代ですが、モーリンマンは何事にもこの「あきらめない」の精神で、目標を達成して参ります。まず、6月のアメリカ社員旅行に向け、2月20日を期限に頑張りたい。そして、今年も新しいモーリン語録が出来る事を期待しています。昨年度、モーリン語録ベスト10を選ぶならば、

- 1、心が変われば人生が変わる
 - 2、自分が変われば相手も変わる
 - 3、FからAへ
 - 4、リスクを背負え
 - 5、期限付き、数値付き
 - 6、トマトはトマト
 - 7、凡事徹底
 - 8、敵在我
 - 9、志(こころざし)
 - 10、情報の共有化はEメールから
- 以上が社内の朝礼や幹部会でよく出てくるスローガンでした。一年前までは、明元素・報連相・一人三役・5Sが流行語でした。ね。蛙年の言葉徹底し、より掘り下げて継続します。ので、よろしくお願ひ致します。

森 信之

年頭の挨拶

「皆さんの

アドバイスのお陰です」

皆さん、明けましておめでとうございます。今年も不景気という楽しい予測に心ウキウキの毎日です。空洞化と言われましてもさっぱり解りませんし、為替と言われましてもわたしヤトヨタの社長じゃありませんから困りません。ただ、理解出来るのはとても楽しい不景気だという事でありまして、こういう不景気な時に、また予算を達成出来る喜びで毎日が楽しくって仕方がないというご機嫌気分があります。私は数字が弱いので予算が7.8%だとか、5.3%だとかを記憶するのは大の苦手でありますから、皆さんが10%だとか20%だとか、覚えやすい予算を昨年に引き続き提出してくれた思いやりに改めて感謝致します。又、数々の戦略も確率高くヒットしております。私がお助かるのは、戦略が成功するかどうかの判断に心強いヒントを与えてくれるからです。それは皆さんが「出来ない、無理だ」との発言が出た場合、確実に成功するからです。心強いアドバイス、いつも有り難うございます。今年もいつものアドバイスをお願いします。

木村 英利



森松クインテット

「電子メールを始めて思った事」

最近電子メールを始めて思った事は、「仕事上の伝達事項は電子メールの方がはるかに理解しやすいい」という事です。その理由としては、まず「だらだらと長い文章にならない」。これは、キーボードを打つ事に慣れてない事もあって、要点だけまとめてメールにしようとするからでしょう。また、口頭ではフルに使用されている「ア、ウ、エ」という物が無い。しかし、要点が要点になってないメールがある。これは表現力がないのか、自分が何を伝えたいのか本当は理解してないのか、何も考えてないけどメールを流さないと叱られるから…。この内のどれかでしょう。つまり、どれをとっても仕事をするには問題のある理由です。

第二番目の理由は「自分が読みたい時、書きたい時に出来る」。これは精神的にありがたい。しかも、送ったメールがいつ読まれたかも分かる。いつまでも読まない人や、返事を流すのにやたら時間がかかっている人なども完璧に分かってしまう。今までだったら「ごめんさい、掲示板を読んでませんでした」とか、「回覧が回って来なかった」とか百万通りの言い訳が出来たのが、一つの言い訳も出来なくなりました。

だが極め付きはそんな事ではない。「指示や報告が永遠に文章として残る」。つまり、自分の意思や判断が正誤にかかわらず残る。もしくは、必要な時に決断すべき人が決断したか。そして、それをいかに分かりやすく指示したか。すべて残るといふ事は従来の馴れ合い・どんぶり・優柔不断・曖昧模糊は許されない。しかも時間表示だから即決でなければならぬ。

今、電子メールが日本の企業の中で驚く程のスピードで広がっているのは、もう日本的「以心伝心」は企業にとって過去の伝達方法であり、あてにならない「死語」になってしまったからであろう。基本的に社会は目まぐるしく変わっています。それが進歩なのかどうかは別にして、変化についていける余裕と視野と努力がなければ、どんな素晴らしい才能も頑固な職人ではない。そう書いている私は森松の中で一番の頑固者と言われています。

牧野 光昌

喜怒哀楽

「新年を迎えて」

去年から森松産業の営業として仕事に励んできましたが、右も左も分らず、ただ行動していたように思います。良い会社、良い仲間、良いお客さんにも大変恵まれていた事を知らずにただ行動していたのでは…。(非常にもったいない事です。)

今年はいよいよ、また変わらぬ行動をするでしょうが、今度は「考動」にしていきたい。分かったフりはやめて、分からないことは何故、どうして、何故なんだと深く追求していく所存です。固い内容はやめまして……。

去年読んだ本の中で「イヤならやめる」という本がありまして、この中の内容がとても気に入っています。非常にシンプルで分かりやすく短時間で読める本でした。題名がとても過激ですが、中身は全然過激でなく、つついというなずいしてしまします。なかでも「おもしろおかしく生きる」という言葉は、私にピッタリの言葉に思います。去年は「どうせやるなら徹底的にやる」とか「言われる前にやる」とか考えていましたので、今年のヘッドコピーは「おもしろおかしく仕事をする」にしようと思います。1年なんて本当に早いものだから、おもしろおかしく仕事をして、12月になって「一体、おれは何をしたんだ」とならないようにしたいものです。

1996年もがんばります。抽象的ですが具体的に言います。

頑固に突っ張る。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

西田 聖一

1995年度 モーリンググループ 家族忘年会



12月9日(土)、本社5Fにて家族忘年会が開催されました。当日は、王焰さん・王志紅さん・李依萍さんによる、本場の「ワンタン」作りや、光田部長親子による「料理教室」等、とても楽しく過ごすことができました。その中で、奥様の握った「おにぎり」を旦那様が当てるというゲームでは、12組の夫婦のうち、何と!!と驚くべきことで

はないのかもしれませんが、全部の夫婦が当てることができ、夫婦の「愛」を見せつけられてしまいました。

お忙しい中参加して下さった皆様、ありがとうございました。そして幹事の松井さん、司会の西脇主任をはじめ、準備に携われた皆さん、本当にお疲れ様でした。

竹田 沙織



10位	9位	8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位
山口隆弘部長	大橋康成係長	岡田洋子さん	伊藤孝子さん	牧野光昌部長	竹内治子さん	光田昭男部長	宮岸礼子さん	横山敏秋次長	森 ちか部長
14年4ヶ月	14年9ヶ月	15年8ヶ月	16年8ヶ月	17年9ヶ月	18年3ヶ月	18年6ヶ月	20年8ヶ月	23年9ヶ月	33年8ヶ月

勤続年数

【部長以下95年12月現在】

モーリンググループ
永年勤続 BEST 10

平成
8年

1月の社内行事

- 7日(日) 正月休暇
- 3日(水) 吉岡課長誕生日
- 4日(木) ウチ夕新年会
- 5日(金) 中文新年会
- 6日(土) 新年会(篤茂) 11時半
- 8日(月) 仕事始め(平常通り)
- 10日(水) アキレス新年会
- 12日(金) 青経塾
- 15日(月) 成人の日
- 16日(火) 中金会
- 17日(水) 改善会議 18時
- 18日(木) 誕生会 12時 4F
- 19日(金) 近藤俊江さん誕生日
- 22日(月) 造集団・中国情報交換会
- 23日(火) 経営会議 17時
- 24日(水) 営業会議 18時
- 27日(土) 編集会議 17時50分
- 第四土曜日休み

内助の功

今月は、村田係長の奥様、

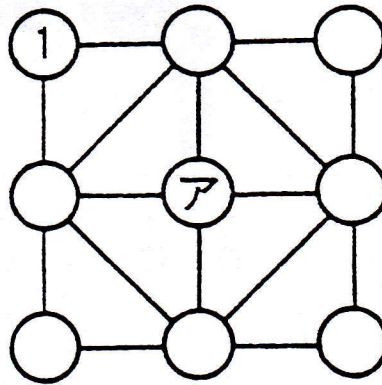
幸子さんです。

私と主人は、知り合って二十年、結婚して十三年になります。いつの間にか主人は私にとって、一番気を使わずに過ごせる人になっていました。ささいな言い争いはありますが、お互い、あまり後に残さないタイプですのですぐに忘れてしまいます。子育てに関しても基本的には「子供は健康第一、明るく育てほしい」ということで、一致しております。

我が家は、主人の両親と同居しておりますが、子供たちは、両親と友達のような感覚で接しているようです。でも、最近はおじいちゃん達が年をとってきた為、多少の気使いは子供なりに出てきております。お父さんに対しては、何でも話せるみたいで、私から見ても、微笑ましく見える時がよくあります。親子三代本当に、気を使うことなく生活しております。そんな訳で、私は夫への気配りなんて、何もしておりません。ただ偏食が多いので、健康を考えての食事については、献立に少し工夫をしています。私にとって主人への「内助の功」は、安心して仕事ができる様に、家の中を明るくし、安らぎのある家庭を築く為に、私なりに努力するという事ではないかと思っております。

クイズコーナー

1~9の数字をそれぞれの○の中に入れて、6個の正方形の頂点の和が20になるとき、⑦に入る数字を答えなさい。



1月末日締切ですので、どんどん応募して下さい。お待ちしております。

お詫びと訂正

12月号、大木隆好さんの退社挨拶の原稿にて「今・ここ・人間・鬼」とありましたが、「今・ここ・人間・魅(人間味)」の間違いでした。ここにお詫びして訂正させていただきます。

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

95年の私は、大きな環境の変化に慣れず、振り回された一年だった気がします。96年は、環境(時間)に振り回されるのでは無く、作っていく自分でありたいと思います。また、家庭でも会社でも良い奥さんと言われる様、一層の努力をしたいと思っております。私にとっては、家庭で良い奥さんになる事の方が、難しかったりしますが……。

中山ひとみ



編集発行者
森松株式会社

発行責任者
高橋武夫

平成8年1月1日
第127号